

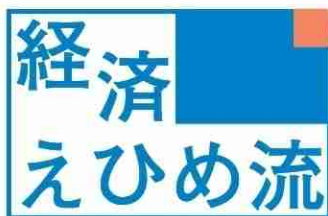
大学の研究成果を生かして新商品や新市場の創出を目指す「大学発ベンチャー」。

0社に上る。ただ起業数は04年度をピークに減少傾向にあり、不況による資金調達も悩みの種。さまざまな課題の中で奮闘する県内の大学発ベンチャーを追った。

目指せ新商品・新市場創出

「大学発ベンチャー」奮闘

02年創業の「セルフリーサイエンス」(松山市文京町)は、愛媛大無細胞生命科学工学研究センターの遠藤弥重太教授が発明した自在にタンパク質をつくる技術の事業化を目指し設立された。



尾沢哲社長によると、主力商品はタンパク質合成試薬と合成装置。10年3月期は売上高約4億円と業績を伸ばすが「運転資金、研究開発資金がショートしている状態」と資金面で頭を悩ませる。頼りとするベンチャー



セルフリーサイエンスの全自動タンパク質合成装置

悩みの種は資金調達

大企業と連携に活路も

キャピタルの出資力が金融危機の影響で低下。ライブドア事件の余波で新興市場が冷え込み、株式

ンチャーという情報技術(IIT)系が多い印象だが、「大学発」はライフサイエンス系が3割を占める。「開発・臨床に時間と費用が掛かり、リスクマネーを積み増している」



愛媛大城北キャンパス内の「愛媛キャンパス情報サービス」

新規公開も厳しく、大企業との連携や公的な研究資金調達に活路を見いだす。「大学発ベンチャーは難しい状況にある」と話すのは、医療機器製造販売「アドメテック」(同)の中住慎一社長(52)。ベ

に充ててきた。我慢の連続だった」と利益に結びつけるまでの苦しみを語る。それでも「チャレンジ精神がないと社会は発展しない。誰かがどこかでリスクをとらなければならぬ」とベンチャーの意義を強調する。「愛媛キャンパス情報サービス」(同)は、愛媛大の情報系の学生らの実学体験の場として06年に設立された異色のIIT系ベンチャー。大学部局のホームページ作成や情



アドメテックの誘導焼灼療法小型装置

報システム開発を低価格で手掛ける。工学部情報工学科の教授だった野田松太郎社長(70)は「大学の現場を知っているから、使いやすいシステムを提供できる」と強みを説く。「起業してコスト意識を強く持つようになった」という野田社長は「大学にベンチャーが存在すること、ベンチャー的な思考が学内に浸透するかもしれない。そうすれば大学が変わるファクターになるだろう」と相乗効果に期待を込めた。(坂本敦志)